国語・根拠と具体例を結ぶ説明文読解ワーク 解答解説

正答・本文根拠・具体例と主張の関係・詳しい解説

対象教科	国語
対象単元	説明文・根拠読解・情報整理
問題構成	基礎4問・標準4問・本番形式4問
問題数	12問
目標時間	50分
難易度	基礎〜標準
公式確認日	2026-08-22

解答確認の方針

正答例の表現だけで判断せず、設問が求める内容、本文中の根拠、答えの形式が対応しているかを確認する。同じ内容を適切に言い換えた解答も人間が最終判断する。

問題 1

本を開くまでの工夫

区分：基礎

筆者が、朝の読書を続けるために大切だと考えていることを答えなさい。

正答：読み始めるまでの迷いを小さくする工夫。

答えの形式

本文の言葉を用いた二十五字程度の名詞句。

本文中の根拠

読書時間の長さより、読み始めるまでの迷いを小さくする工夫が大切だ。

具体例・主張の関係

前日に本を置き五分だけ読む具体例が、始めるときの迷いを減らすことが継続につながるという主張を支えている。

考え方

・設問の『大切だと考えていること』に注目する。

・本文中の『大切だ』を含む文を探す。

・比較されている『時間の長さ』ではなく、後半の内容を答える。

都立入試ナビ

詳しい解説

『五分読む』だけを答えると具体例にとどまる。筆者が具体例から導いた一般的な考えは、読み始めるまでの迷いを小さくする工夫である。

確認観点

迷いを小さくすることと、読み始めるための工夫という内容が含まれるか確認する。

間違いやすい点

『五分だけ読むこと』と答え、筆者の主張ではなく一つの方法だけを書くこと。

見直しポイント

答えの語句を本文の『大切だ』の文に戻し、主語と述語の関係が通るか確認する。

問題 2

駅の案内板

区分：基礎

『ある駅』の具体例は、筆者のどの考えを支えていますか。

正答：必要な情報を使う順序に合わせて目立たせると、案内が分かりやすくなるという考え。

答えの形式

『～という考え』で終わる一文。

本文中の根拠

必要な情報を、使う順序に合わせて目立たせることが、分かりやすい案内につながる。

具体例・主張の関係

建物を一つだけ大きく示して迷う人が減った例が、情報の量より順序と目立たせ方が重要だという考えの効果を具体化している。

考え方

・具体例の直後にあるまとめの文を探す。

・駅で起きた変化と筆者の一般的な考えを結ぶ。

・例そのものではなく、例が支える考えを答える。

詳しい解説

『人が減った』は結果であり、支えられている考えは、必要な情報を順序に合わせて目立たせると分かりやすくなることである。

確認観点

必要な情報、使う順序、分かりやすさの三点が対応しているか確認する。

都立入試ナビ

間違いやすい点

『立ち止まる人が減った』とだけ答え、具体例が支える考えを書かないこと。

見直しポイント

『例えば』の前後を読み、後ろのまとめの文を言い換えられているか確かめる。

問題 3

観察記録の二つの欄

区分：基礎

『葉が三枚増えた』という情報は、どのような情報ですか。

正答：観察した事実。

答えの形式

本文中の五字で答える。

本文中の根拠

『葉が三枚増えた』は観察した事実だが、

具体例・主張の関係

葉の枚数と日当たりの説明を対比する具体例が、事実と考えを分ける必要性を明らかにしている。

考え方

・問われた表現を本文中で探す。

・直後の説明を確認する。

・対比される『理由についての考え』と混同しない。

詳しい解説

本文は、数えた葉の枚数を事実、日当たりとの関係を考えとして区別している。設問は前者の分類を問う。

確認観点

『観察した事実』と本文どおり分類できているか確認する。

間違いやすい点

『理由についての考え』と答え、対比の後半を選ぶこと。

見直しポイント

『だが』の前後を区切り、設問の表現がどちら側にあるか確認する。

問題 4

話し合いの沈黙

都立入試ナビ

区分：基礎

学級の具体例から分かる、三十秒のメモ時間の効果を答えなさい。

正答：発言と、前の意見を受けた発言が増えること。

答えの形式

二つの効果を一文で答える。

本文中の根拠

すると、発言の数だけでなく、前の意見を受けた発言も増えた。

具体例・主張の関係

メモ時間を設けた後の変化が、沈黙を考える時間として使うと話し合いが深まるという主張を支えている。

考え方

・具体例の行動と、その後の変化を分ける。

・『だけでなく』で結ばれた二つの効果を確認する。

・方法ではなく効果を答える。

詳しい解説

三十秒メモを書くことは方法で、設問が求める効果は、その後に発言数と意見を受けた発言が増えたことである。

確認観点

発言数の増加と、前の意見を受けた発言の増加の両方があるか確認する。

間違いやすい点

『三十秒メモを書くこと』と答え、効果ではなく方法を書くこと。

見直しポイント

設問の『効果』を『その結果どうなったか』と言い換えて本文を探す。

問題 5

失敗を残す設計図

区分：標準

筆者は、失敗の記録を何にたとえていますか。また、その理由も答えなさい。

正答：次の判断に使える設計図。理由は、他の人が同じ失敗を避けて新しい案を考えられるから。

答えの形式

たとえと理由を二文以内で答える。

都立入試ナビ

本文中の根拠

失敗の記録は完成への遠回りではなく、次の判断に使える設計図になる。

具体例・主張の関係

使わなかった案と理由を残し、別の班が活用した具体例が、失敗の記録を設計図とみなす比喩の根拠になっている。

考え方

・『何にたとえるか』に対応する比喩表現を探す。

・直前の別の班の行動から理由をまとめる。

・たとえと理由を分けて書く。

詳しい解説

『設計図』は、次に何を選ぶかを助けるものという意味で使われている。別の班が同じ失敗を避けられたことが、その働きを具体的に示す。

確認観点

『次の判断に使える設計図』と、同じ失敗を避け新しい案を考えられる理由が対応しているか確認する。

間違いやすい点

『遠回り』と答えることや、設計図という比喩だけで理由を書かないこと。

見直しポイント

『ではなく』の前後を比べ、筆者が肯定している後半を選んだか確認する。

問題 6

一枚の写真と全体像

区分：標準

筆者が、昼休みの写真だけで『いつも混雑している』と判断するのは早いとする理由を答えなさい。

正答：一場面だけでは時間帯による違いを含む全体を説明できないから。

答えの形式

『～から』で終わる一文。

本文中の根拠

具体的な一場面は理解の入口になるが、全体を説明するには複数の情報を組み合わせる必要がある。

具体例・主張の関係

昼休み、朝、放課後の写真を比べる例が、一つの具体的情報だけでは全体を説明できないという主張を支えている。

都立入試ナビ

考え方

・『判断するのは早い』の後に示される追加情報を確認する。

・一枚の写真と複数情報の対比を捉える。

・不足している点を理由としてまとめる。

詳しい解説

写真が誤りなのではなく、一つの時刻しか示さないため全体の説明には不足する。複数時刻の情報を組み合わせる必要がある。

確認観点

一場面だけであることと、時間帯を含む全体を説明できないことが結び付いているか確認する。

間違いやすい点

『写真は信用できないから』と、本文にない全面的な否定を書くこと。

見直しポイント

自分の答えが写真自体を否定していないか、『入口になる』の文と照合する。

問題 7

共有ノートの役割

区分：標準

筆者が考える『共有』とはどのようなことですか。

正答：どこまで確かめたかを見えるようにすること。

答えの形式

本文の表現を用いて三十字以内で答える。

本文中の根拠

共有とは、結論だけをそろえることではなく、どこまで確かめたかを見えるようにすることである。

具体例・主張の関係

未確認の情報に疑問を添える例が、結論だけでなく確認の途中状態も共有するという主張を具体化している。

考え方

・本文中の『共有とは』を探す。

・『ではなく』の後にある定義を選ぶ。

・具体例の説明を加えすぎず、定義を簡潔に答える。

都立入試ナビ

詳しい解説

筆者は全員の結論を同じにすることを否定し、確認の進み具合を見えるようにすることを共有と定義している。

確認観点

『どこまで確かめたか』と『見えるようにする』の両方が含まれるか確認する。

間違いやすい点

『全員が同じ文章を書くこと』と、本文が否定している内容を答えること。

見直しポイント

『AではなくB』の形を見つけ、Bを答えにしているか確認する。

問題 8

便利さを確かめる質問

区分：標準

係の評価には、どのような情報が不足していましたか。

正答：仕組みを変えた後に読み落としが増えていないかという情報。

答えの形式

不足した確認内容を一文で答える。

本文中の根拠

しかし、読み落としが増えていないかは調べていなかった。

具体例・主張の関係

送信時間だけで成功とした例が、便利さを一面だけで評価せず新たな課題も見るべきだという主張の必要性を示している。

考え方

・『不足』を『調べていなかったこと』と言い換える。

・逆接の『しかし』の後を探す。

・送信時間ではなく、未確認の読み落としを答える。

詳しい解説

係は時間短縮という良い面を確認したが、読み落としという新たな課題を調べていない。その情報が評価に不足している。

確認観点

変更後の読み落としの増減という未確認情報を特定できているか確認する。

都立入試ナビ

間違いやすい点

すでに比べた『送信時間』を不足情報として挙げること。

見直しポイント

『調べたこと』と『調べていなかったこと』を二列に分け、不足側を答えたか確認する。

問題 9

二つの地図を重ねる

区分：本番形式

筆者は、情報を組み合わせる価値をどのように説明していますか。学校の例との関係も含めて答えなさい。

正答：別々では見えない関係を発見できること。学校では、通行量の多い道と水がたまりやすい地点との重なりを発見した。

答えの形式

価値と具体例の対応を二文以内で答える。

本文中の根拠

情報を組み合わせる価値は、量を増やすことではなく、別々では見えない関係を発見できることにある。

具体例・主張の関係

二つの地図を重ねて危険地点を見つけた例が、異なる情報の関係を発見できるという主張を直接示している。

考え方

・最終文で筆者の一般的な主張を確認する。

・学校の例で、どの二情報の関係が見えたか整理する。

・主張と例を一対一で対応させる。

詳しい解説

地図が二枚になったこと自体ではなく、通学路と水たまりの地点の重なりが分かったことが価値である。量と関係の発見を区別する。

確認観点

別々では見えない関係の発見と、二地図の重なりの例が対応しているか確認する。

間違いやすい点

『情報量が増えること』と、本文が否定している内容を価値として答えること。

見直しポイント

『AではなくB』のBと、具体例で見つかった関係をそれぞれ示せているか確認する。

都立入試ナビ

問題 10

速さと確かさの間

区分：本番形式

例の連絡文に『十時現在』『学校から届いた案内』と示すことが適切なのはなぜですか。

正答：受け手が情報の時点と出所を確かめられるから。

答えの形式

『～から』で終わる四十字以内の一文。

本文中の根拠

受け手は情報の時点と出所を確かめられる。

具体例・主張の関係

時刻と発信元を示す連絡例が、短い確認手順を共有すれば速さと確かさを両立できるという主張を具体化している。

考え方

・設問中の二表現が何を表すか整理する。

・例の直後に示される受け手側の効果を探す。

・速さだけでなく確かさに関わる理由を答える。

詳しい解説

『十時現在』は時点、『学校から届いた案内』は出所を示す。受け手がこの二点を確認できるため、確かさを保ちながら早く伝えられる。

確認観点

情報の時点と出所の両方を受け手が確認できることが含まれるか確認する。

間違いやすい点

『体育館が開放されるから』と連絡内容だけを答え、時刻と出所を示す理由を書かないこと。

見直しポイント

設問中の二つの引用と、答えの二要素が対応しているか線で結ぶ。

問題 11

図書館の棚の入口

区分：本番形式

筆者は、分類番号と読み方の札をどのような関係にあるものとして捉えていますか。

正答：分類番号を残しつつ、読み方の札を選び始めるための別の入口として加える関係。

都立入試ナビ

答えの形式

両方の役割を対比した一文。

本文中の根拠

分類をなくすのではなく、選び始めるための別の入口を足すことが、利用者の選択を広げる。

具体例・主張の関係

読み方の札で未知の分野の本を手に取った例が、既存分類を保ちながら別の入口を加えると選択が広がるという主張を支えている。

考え方

・分類番号の利点と限界を整理する。

・読み方の札によって起きた変化を確認する。

・一方をなくすのではなく、役割を補う関係としてまとめる。

詳しい解説

筆者は分類番号を否定していない。目的が決まった人には分類番号、決まっていない人には読み方の札が入口となり、互いに役割を補う。

確認観点

分類番号を残すこと、読み方の札を別の入口として加えること、選択を広げることが対応しているか確認する。

間違いやすい点

『分類番号をやめて読み方の札に変える関係』と、本文と逆の置き換えとして答えること。

見直しポイント

『なくすのではなく』『足す』の二表現を答えに反映できているか確認する。

問題 12

木陰の使われ方を調べる

区分：本番形式

最初の調査結果だけでは、委員会の予想を十分に確かめられない理由を二つ答えなさい。

正答：体育行事の練習で集合場所が木陰の近くだったことと、別の日の気温・行事の有無・滞在時間を比べていなかったこと。

答えの形式

不足または影響した条件を二つ、並列に答える。

都立入試ナビ

本文中の根拠

しかし、その日は体育行事の練習があり、集合場所が木陰の近くだった。

具体例・主張の関係

一度の人数だけでは行事の影響を除けず、別日の条件を加えると使われ方の違いが分かった例が、数値の生まれた条件まで調べるべきだという主張を支えている。

考え方

・最初の調査で人数が増えた別の理由を探す。

・追加調査で新たに記録した条件を整理する。

・一回限りの特殊条件と比較不足の二点として答える。

詳しい解説

最初の日は行事による集合という別要因があり、通常の休憩利用だけを示していない。また、別日や気温などとの比較がなく、条件による違いを確かめられていない。

確認観点

行事による集合の影響と、別日・気温・行事・滞在時間などの比較不足の二点が区別されているか確認する。

間違いやすい点

『人数が少ないから』など本文にない理由を書くことや、行事の影響だけで二つ目の理由を書かないこと。

見直しポイント

答えを二つに分け、一つ目が特殊条件、二つ目が比較不足になっているか確認する。

総合見直し

・設問が理由・役割・主張・情報の適否のどれを求めているか確認した。

・本文中の根拠に線を引いた。

・具体例だけでなく、それが支える主張まで確かめた。

・本文にない推測や自分の意見を混ぜていない。

・指定された語句・一文・字数程度などの答えの形式を守った。

公式情報確認日：2026-08-22

都立入試ナビ